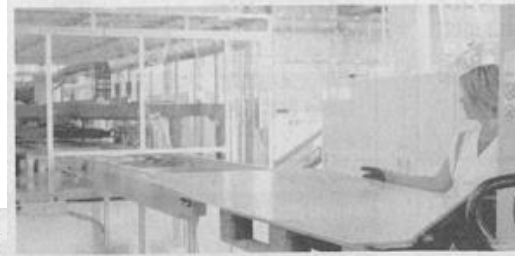


欧米でのR装置 導入が進む

エヌ・ピー・シー

太陽光パネル製造装置 自社開発・製造の太陽
置を中心に、FA装置
の製造販売を手掛ける
エヌ・ピー・シー(東京
・台東、伊藤雅文社長)
の環境事業が盛況だ。



欧州でのホットナイフ分離法への期待は高い
景に受注が順調
に伸びている。
同社は、独自の「ホットナイフ分離法」を軸としたパネル解体装置の開発で、リサイクル分野に参入。同技術を活用したガラス分離装

置、セミオートでアルミフレームと端子ボックスを取り外すフレーム・J・B・O・X分離装置を展開している。2024年9月末までの累計(納入予定を含む)で、日本国内では17カ所に導入しており、全国に処理ネットワークは拡大しつつある状況だ。フレーム・J・B・O・X分離装置では移動式の許可を取得した事例もあり、発電所でのリパワークによる大量廃棄などへの対応も進んでいる。
同社のホットナイフ分離法は、板状のまま割らずにガラスとそれ以外を分離できる点が最大の特徴。他の部材とのコンタミ(交雑)がないガラス回収を実現しており、処理後の回収ガラスの高度循環利用に期待が寄せられている状況だ。「太陽光パネルリサイクルの



の用途拡大も進
む。パネル解体
装置を導入・稼
働しているフラ
ンスのEnvi
e社では、分離
したガラスを再
生ガラス原料と
して板ガラスメ
ーカーに有価で
販売。すでに、
ウァーシントン
のミックスで板
ガラスへの利用
が進んでおり、
グラスの出荷実績がある。ガラスの循環利用の法規制が広がってだけでなく、原料調達止のオーストラリアでの引き合いは強い。ガラス高度リサイクルへの関心も強く、再生ガラス原料としての研究・開発が進んでいる」と伊藤社長は話す。すでに導入済みのフランスへの追加設置に加え、チェコ、オーストリア、アメリカにも導入実績が広がった。さらにEU諸国や台湾などからも引き合いがあり、複数の商談が進行中という。

社会システムが運用されていく。数百の出荷実績がある。ガラスの循環利用の法規制が広がってだけでなく、原料調達止のオーストラリアでの引き合いは強い。ガラス高度リサイクルへの関心も強く、再生ガラス原料としての研究・開発が進んでいる」と伊藤社長は話す。すでに導入済みのフランスへの追加設置に加え、チェコ、オーストリア、アメリカにも導入実績が広がった。さらにEU諸国や台湾などからも引き合いがあり、複数の商談が進行中という。

高品質な回収ガラス
回収ガラスを活用。ガラ
負を語った。